

科目名	人間学特殊ゼミ II F (スピリチュアルケア実践論)	学 期	後期	単 位 数	2	担 当 者	大河内大博
副題	-						

ナンバリング

N2-10-287

授業方法

講義

実務経験の有無

無

関連DP

2

授業の目的と概要

本授業では、国内のスピリチュアルケアの理論について学習し、加えて、会話記録セッションによるグループワークを通して、自らの実践の振り返り、ケア実践の強みと弱みについての自己理解を深める。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理論を正しく理解し、グループワークを通して自らの実践を振り返る視点を身につける。

授業計画

1. スピリチュアルケアの基礎
2. スピリチュアルケアの理論① (窪寺理論)
3. スピリチュアルケアの理論② (大下理論)
4. スピリチュアルケアの理論③ (村田理論)
5. スピリチュアルケアの理論④ (伊藤・谷山・小西理論)
6. 会話記録セッション① (患者とのラポール形成)
7. 会話記録セッション② (患者とのラポール形成)
8. 会話記録セッション③ (対人援助パターンの気づき)
9. 会話記録セッション④ (対人援助パターンの気づき)
10. 会話記録セッション⑤ (他職種連携について)
11. 会話記録セッション⑥ (他職種連携について)
12. 会話記録セッション⑦ (質問法とフィードバック)
13. 会話記録セッション⑧ (質問法とフィードバック)
14. 会話記録セッション⑨ (カンファレンスのコーディネート)
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 自己課題への気づきを得ている。
- (B) 自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
- (A) 自己開示ができ、課題に取り組み姿勢がみえている。
- (S) スピリチュアルケアの基本的対人姿勢が理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークでは自己開示を必要とする授業である。土3の「スピリチュアルケア演習」（前後期）とセットで受講することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）